



「思いやりの心」を育てるとは？

思いやりの心とは、相手の立場に立って考えたり、気持ちを理解したり、その場に応じた行動のできる心情です。この心は、親の深い愛情や家族との温かい交流の中で育ち、近隣の人たちや多くの人々とのふれあいを通じて培われます。また、実際に自分が困ったときに助けてもらった経験等によってさらに深い思いやりへと広がっていくのです。思いやりの心が欠ける原因として考えられることは、「自分だけが大切という社会的風潮」や「余裕の無さ」です。子供は困っている人や傷ついた小動物に接すると、通常はごく自然に同情の気持ちを抱きます。それを素直に行動として表すこともそれほど難しいことではありません。たとえ、その表し方はうまくなくても、そのような場面に接したときには、それを励まし、賞賛することは大切なことです。また、自分の体験談やテレビ等で伝えられている外国の厳しい生活状況などについて家族で話し合うことも思いやりの心を育てる上で大切なことです。

朝読書 読み聞かせ（ゆいの会）



6月12日（月）に、学校支援ボランティア「ゆいの会」による「読み聞かせ（カラフル）」がありました。図書室の利用促進と本に興味を持ってもらうことを目指した活動です。人間が考えたり、想像したりするのは、全て言語によります。人間の脳の左の部分は、言語中枢であると言われていますが、この左脳を十分に発達させる意味で、読書は大事な役割を果たしています。また、本を読むという行為は、学力の根底をなす言語能力を育てるだけでなく、感性をつかさどるといわれている右脳を発達させ、豊かな人間性を育てるという働きの上で、かなり意義が高いです。学校支援ボランティア「ゆいの会」の皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。（写真は1年生）

＜校外行事＞ 5月16日～18日に2年生の二泊三日の林間学校（長野県）、5月26日に1年生の校外学習（上野）を実施しました。6月21日からは3年生が奈良・京都へ二泊三日の修学旅行へと出発する予定です。